

平成24年2月27日

加西市議会議長 森田 博美 様

建設経済常厚生任委員長 三宅 利弘

## 建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

### 記

○日 程 平成24年1月16日(月)～17(火)

○視察先 福井県敦賀市、福井県越前市

○参加者 三宅利弘 衣笠利則 黒田秀一 土本昌幸 長田謙一 別府 直 森元清蔵  
深江克尚(随行)

○主な視察内容等

敦賀市・・・**敦賀市の農業事情と有害鳥獣対策について**

(視察時間) 13:30～15:30

(視察対応者) 産業経済部農務課 中瀬課長、道端課長補佐、村上係長  
議会事務局 武井主事

視察終了後、敦賀市農産物直売所「ふるさと夢市場」を見学

越前市・・・**万葉集を活用した観光施策について**

(視察時間) 9:15～11:15

(視察対応者) 味真野観光協会 三田村会長  
産業振興部 商業・観光振興課

万葉菊花園 長谷川園長、細川副園長

議会事務局 山口主幹

視察後に「越前そばの里」を見学

## 【敦賀市】1月16日（人口 67,977人）

敦賀市は、福井県の中央南部に位置し、東西に14 km、南北に26 km、市域は250k m<sup>2</sup>、古くから敦賀港を中心に陸路においても都と北国結ぶ要衝として発展、1899年の開港指定後は大陸間定期航路が開設され日本海側玄関口となる。戦後も大畑フェリーや環日本海諸国間コンテナ船の就航、原子力発電所の立地。

2005年にJR北陸本線・湖西線直流化開業、2014年舞鶴若狭自動車道開通（予定）。

## 敦賀市の農業事情と有害鳥獣対策について

### ●敦賀市の農業概要について

市域の85%が山林。第1次産業従事者は2.5%、70%が水稲。

#### 1. 敦賀市の農業の現状

- (1) 水稲単作地帯
- (2) 園芸栽培・出荷の中心は、キュウリ・ほうれん草
- (3) 小規模・兼業農家が多い
- (4) 規格の決まった共同出荷からファーマーズ（直売所）出荷への移行が見受けられる
- (5) 鳥獣害、後継者不足等による耕作放棄地の増加がみられる

#### 2. 耕作面積の推移

- (1) 水田面積は、平成18年から平成22年にかけて約13ha減少
- (2) 耕作面積が減少、自己保全管理等の不作付面積が増加している
- (3) 生産調整により、水稲耕作面積が減少しているが、園芸において野菜の作付けがやや増加傾向にある

#### 3. 農業者の推移

- (1) 農業者数は年々減少
- (2) 認定農業者は30名代半ばで推移
- (3) 集落営農組織は22年度減少  
収支を一元化して行う協業組織のうち、1組織は現在法人化に向け取り組み中

### ●農業支援について

#### 1. 農業経営に関する支援（平成23年度現在）

##### ◇農業経営安定対策

- ・園芸作物の取組・出荷に対する助成
- ・無人ヘリ防除の取組に対する助成
- ・備蓄用米の取組・出荷に対する助成（2,500円/俵）

#### 2. 担い手の促進について

国の政策及び集落の意思を踏まえ、地域ごとに認定農業者を中心か、集落営農組織への取組

を推進していく

◇政策の主な内容

- ・所得補償、農地集積支援、資金対策等

### 3. 鳥獣害対策

鳥獣害による耕作放棄地の増加が全国的に問題になっている。その対策として、敦賀市では次の対策を行っている

- ・課内に「有害鳥獣対策室」を設置（平成23年6月1日）  
（室長、室長補佐、係長2名、主事、臨時職員※猟友会捕獲隊）  
（室長、室長補佐、係長1名は兼務）
- ・電気柵、恒久柵による防除
- ・有害鳥獣の捕獲（檻）
- ・山際の草刈、パトロール

今後は、関係機関連携のもと、鳥獣害のない里づくりをめざす

### 4. 直売所等の活用

◇直売所の利点

- ・通常の出荷では規格外の品でも出荷を行える
- ・少量、多品目の生産販売が可能
- ・消費者の声を直接聞くことができる

### 5. 市民農園・体験農園等の推進

◇市民農園（運営：農地管理者）

- ・市内に6ヵ所開設
- ・利用料 年間3,000円／1区画（30㎡）

◇体験農園

- ・木崎地区で市企画の体験農園を開催（現在30組が参加）

## ●敦賀市の有害鳥獣対策の概要

### 1. 国庫事業（整備事業）の実施

事業内容：金網柵の設置（平成22年度から）

実施主体：敦賀市鳥獣害対策協議会

負担割合：国（県）55%、市25%、地元20%

資材のみ国（県）100%、施工は地元負担

平成22年度 2件4.5km（請負・直営各1件）

平成23年度 4件8.85km（請負・直営各1件、資材のみ2件）

## 2. 国庫事業（推進事業）の実施

事業内容：狩猟免許講習会受講費助成

大規模緩衝帯の整備（3地区で実施）※6ha 金網柵の設置

センサーカメラ購入

捕獲用わな（小浜ビーストキャッチ（鹿用））購入（2基）

サルテメトリー調査（3地区）発信器 16%に減少

実施主体：嶺南地域有害鳥獣対策協議会

負担割合：国（県）100%

大規模緩衝帯整備については1haあたり50万円の補助

## 3. 県補助事業の実施

事業内容：電気柵・簡易金網柵の設置

負担割合：県、市、地元 1/3ずつ負担

平成22年度 3地区3,070m（全て電気柵）

平成23年度 3地区1,360m（うち860m（電気柵）、500m（ワイヤーメッシュ柵））

※平成15年～20地区

## 4. 有害鳥獣の捕獲

事業内容：農地に侵入する有害鳥獣の捕獲

年度	イシ	ホソジカ	サル	クマ	ハクビシ	アナグマ	アライグマ	合計	被害面積
平成10年度	31			1				32	16.5
平成11年度	73	3	1					77	9.2
平成12年度	82	2	3	2				89	4.5
平成13年度	137	3		1				141	6.9
平成14年度	194	4	1					199	18.3
平成15年度	253	7	2					262	14.71
平成16年度	377	20	7	14				418	10.5
平成17年度	107	7						114	6
平成18年度	382	11	9	14	1			417	8.4
平成19年度	301	26	5	1	9			342	8.9
平成20年度	482	40	7		42	10	1	582	11.5
平成21年度	529	181	15		87	9	1	822	7.9
平成22年度	653	368	42	3	69	23	1	1,159	12.4

## 5. 有害鳥獣の捕獲

目 的 : 効果的な捕獲檻の設置及び管理による捕獲を行うため、捕獲檻周辺でのイノシシの習性や行動について調査分析を行い、被害防止技術の向上を図る。

事業内容 : イノシシ檻 30 基に動画録画可能なモニターカメラを設置し、行動を調査分析。結果をもとに効果的な捕獲、被害防止対策を検討する。農家・捕獲隊に対し、調査の報告会を開催する。

※市単独事業。100 基の檻のうち 30 基にセンサーカメラを設置。報告会ではカメラ映像を交えて説明を実施。

## 6. 獣肉利活用の推進

目 的 : 有害鳥獣の捕獲頭数が増加し、有効な利活用として処理加工施設の設置に向けて検討する。

事業内容 : 先進地視察、獣肉利活用の講演会開催

## 7. 嶺南地域有害鳥獣処理加工施設の稼働

概 要 : 嶺南 6 市町が共通する課題（有害鳥獣の処理及び利活用）について、嶺南連携事業推進協議会を設置し、その課題解決として、若狭町に嶺南地域有害鳥獣処理加工施設を設置する。

実施主体 : 若狭町（嶺南 6 市町の代表として）

内 容 : 平成 24 年 4 月から、焼却施設が稼働。敦賀市もその施設を利用するにあたり、一時保管施設の設置を行う。

※一時保管施設とは冷凍庫。週 2 回の回収を行う。

まず、人的整備で、課内に「有害鳥獣対策室」を設置（室長、室長補佐、係長 2 名、主事、臨時職員 ※猟友会捕獲隊）されたうえで、国県の制度を活用しながら、財政的な裏付け（有害鳥獣対策費 3 千万円）をもって真摯に取り組まれている。

センサーカメラを活用し、イノシシの生態を分析対応し、捕獲頭数に反映。

## ●敦賀市農産物直売所「ふるさと夢市場」

開 設 : 平成 22 年 11 月

設置目的 : 敦賀市の農業振興と地産地消を推進するとともに生産者の販売及び営農活動の拠点とする。

運 営 : 指定管理者「敦賀市農産物直売の会」

※直売所を利用した農業の振興と地産地消の推進を目的とし、直売所の整備を機に市内農家有志により設立された生産者組織

特 色 : 生産者の活動拠点として位置づけ。農業者を中心とした団体が指定管理者として管理運

営を行い、農家の収益向上と農業の活性化に向けた一翼を担っている。

開館時間：9時～18時

敷地面積：2,415 m<sup>2</sup>

建物構造；木造平屋建て

建物面積：193.77 m<sup>2</sup>

主要施設：販売所、加工場、事務所、駐車場（40台）

※直売所だけでなく、公民館活動とリンクし地元野菜を使った料理教室を開催するなど地域の交流拠点となっている。

## 【越前市】1月17日（人口 87,742人）

越前市は、福井県のほぼ県央に位置し、2005年武生市と今立町が合併して発足。旧武生市は古志の国として古くから栄え、大化の改新のころ越前国府が置かれ北陸の中心として発展した。現在は県央の商工業都市。JR北陸本線と北陸自動車道が通り、北陸新幹線も予定されている。

## 万葉集を活用した観光行政について

奈良時代、政争に巻き込まれ越前市味真野地域に流された中臣宅守（なかとみのやかもり）と聖武天皇に仕える女官狭野弟上娘子（さののおとがみのおとめ）との間に恋の歌が交わされ、我が国最古の歌集「万葉集」にその63首が収められていることから、越前市では、ゆかりの味真野地区に越前の里（万葉館並びに味真野苑）や万葉菊花園といったハード事業に加え、万葉祭、万葉かるた、万葉クイズ、万葉焼き、全国公募恋短歌募集「あなたを想う恋のうた」といったソフト事業、それらを統合的に活用した万葉ロマン街道事業等を実施。

また、市観光協会とは別にこの地域の味真野観光協会が地域住民も一体となってさまざまな観光事業を実施されている。

加西市が歴史の街として播磨風土記を活用しようとするにあたっては参考事業の宝庫であるといえる。

越前市では、万葉集のほかに、越前そばをはじめ、菊、お茶、甲冑武者といったさまざまな切り口を互いにリンクさせながら観光事業を展開されている。

### ●越前の里 味真野苑 万葉館

越前の里・味真野苑には、中臣宅守と狭野弟上娘子との間に恋の歌63首のうち代表的な15首が歌碑として刻まれている。

また、当該15首のうち2首（巻十五 三七二七：中臣宅守、巻十五 三七二四：狭野弟上娘子）が苑内「比翼の丘」に歌碑として刻まれている。

正倉院をモチーフにしたようなデザインの万葉館は、「万葉のロマンと恋の歌」をコンセプトに平成16年4月にリニューアル。中臣宅守と狭野弟上娘子との贈答歌63首を展示。万葉の歌人と恋の歌を音声を変えて映像で紹介するコーナーのほか、「万葉年表」・「万葉集の秀歌」など万葉集の正解を楽しみながら古代ロマンに触れることができる。

加えて現在の恋の歌も展示され、新旧の恋の歌を楽しむことができる。越前市では味真野に因み、平成10年から「あなたを想う恋のうた」を募集している

このほか、文化財「文字丸瓦」、「越前万歳」、上村松園（女性として初の文化勲章受章者）の代表作「花がたみ」の絵（写真複製）を展示。

また、万葉館の西側には古代よりこの地に伝わる継体天皇の恋の伝説を永く後世に伝える「花がたみ・継体天皇像」も建立されている。

※ちなみに継体天皇は根日女伝説に登場する 23 代顕宗天皇と 24 代仁賢天皇となる袁奚（をけ）、意奚（おけ）の二皇子の 2 代後、26 代天皇が継体天皇です。



正倉院風建物の万葉館

「花がたみ・継体天皇像」

### ●越前市万葉菊花園

万葉菊花園は総面積 2.7ha、総工費約 8 億円をかけて「年間を通じて菊栽培の糧が見られる施設」をコンセプトに平成 10 年 4 月にオープン。平成 19 年には来園者が 50 万人を突破。

菊の栽培施設のほかに、越前市東部の観光拠点、花と触れ合うことのできる癒しの空間、園児・学生が自然と歴史と触れ合う場としてさまざまな役割を担っている。

昭和 27 年に始まり 60 回を数える「たけふ菊人形」を彩る「人形菊」や千輪菊なども菊花園で栽培管理を行っている。

※当該施設は福井県が平成 10 年に設置し、平成 17 年には市に移管されている。加西市でいえば小規模なフラワーセンターを県から移管されるようなもの。越前市は地元のまちづくり協会等に指定管理を計画中のことであったが、実現にはまだ時間を要するとのこと。

### ●味真野観光協会（昭和 54 年～）

目 的： 味真野地区の観光、並びに特産振興の宣伝を行い観光客の誘致を図り、地域の発展に寄与する。

事 業： 観光資源の保存、開発、利用  
観光事業の調査、研究  
郷土文化の育成  
特産品及び土産品の改良、紹介

活 動： ・観光パンフレットの作成  
・地域史跡の整備  
・味真野音頭の振興、民謡の発掘

- ・観光標語の募集、特産品の振興・販売
- ・あじまの万葉祭の開催（昭和 58 年～ 30 回）  
地元中学生をはじめ地元住民が古代衣装に身をつつみ雅楽の優雅な音色に合わせて  
厳かに練り歩く「万葉行列」など。
- ・万葉ロマンの道整備（道標（灯籠）の設置）  
灯籠 63 基（万葉集歌 63 首を刻む）
- ・「福井時代まつり」、「朝倉戦国時代まつり」、「小谷城まつり」等に参加交流
- ・水の道・歴史の道の観光遊歩道の整備
- ・案内看板の整備
- ・越前の里おもてなし推進事業イベント  
（味真野探検隊、味真野万葉かるたで遊ぼう、万葉集を楽しむ、あじまの学習塾）

このほかに、平成 23 年度は、

○万葉文化の研究とまちづくり事業

- ・万葉文化講座の開催
- ・高岡万葉まつり参加と交流
- ・万葉ロマン街道に道標パネル板を設置
- ・万葉文化先進地研究会

○ふるさと地域の元気再生支援事業

- ・万葉焼き（オリジナルキャラクター焼き）
- ・包装紙、ミニバック（紙）の製作
- ・お茶かんでん、お茶大福もち、そばかりんとうの開発

※ 地元団体である観光協会がまちづくり事業にこういった施設を活用することは大変重要で、加西市の観光施策にも今後の市政展開と合わせて活用が期待される。